

特別寄稿

建設産業を元気に！ そして日本を元気に！

(前) 国土交通省 近畿地方整備局長 見坂 茂 範



日本建設機械施工協会会員の皆様におかれましては、平素より格別にお世話になっております。

貴協会は、設立当初から建設事業の機械化を推進され、これまで現場での施工の省力化・効率化に取り組まれ、目覚ましい生産性向上が図られています。また、少子・高齢化の時代を迎え、担い手の確保が難しくなる中、無人化施工の現場実装など i-Construction の取り組みをリードしてこられました。また、各地方整備局とは災害応急対策協定を締結され、災害発生時には迅速な対応をされるなど、地域の安全・安心に貢献されており、心より敬意を表します。

私は、これまで国土交通省で、関東地方整備局企画部長、本省大臣官房技術調査課長、近畿地方整備局長等を経験しました。それぞれの職場で、i-Construction や建設 DX の促進、建設産業の GX 化についても取り組んでまいりました。これらの分野については、引き続き継続的な取り組みが必要だと考えます。そして、貴協会の会員の皆様のご活躍が期待される分野であると思います。

貴協会の皆様をはじめ、建設産業が持続可能な産業であり続けるためには、次の二つのことが重要である

と考えます。

一つ目は、公共事業予算をしっかりと確保し、防災・減災、国土強靱化に努め、そして、インフラ投資を積極的に行うことにより地域経済の活性化を図っていくことです。

二つ目は、建設産業で働く皆さんの処遇改善、特に賃金のアップが重要です。既に建設産業も担い手不足が課題ですが、これからは少子化で更に各産業間での人手の争奪戦が激しくなります。そのような状況下で、若い人たちに建設産業を選んでいただくためには、建設産業で働くすべての人たちの処遇改善、賃金アップが重要だと考えます。このためには、仕事を安定的に確保することにより会社の経営が安定し、そして社員の皆さん、現場で働く技術者の皆さんの賃金アップにつなげていくことが必要です。

建設産業を巡っては、時間外労働の上限規制の問題、担い手不足の問題、ICT 活用による生産性向上など、様々な課題があります。特に、ICT 活用による生産性向上については、貴協会の皆様がこれまで取り組んでこられた成果を一層進化させ、社会に貢献しご活躍いただける分野であると思います。貴協会の益々のご活躍を期待しております。

JICMA